

《担当者名》 澤田篤史 as-51@hoku-iryo-u.ac.jp 阿部隆宏 多田菊代

【概要】

内部障害理学療法学で習得した知識をもとに、内部障害系疾患に対する各疾患の病態の理解、および理学療法理学療法評価とリハビリテーションアプローチの基本的な考え方について学修する。演習では主にペーパーペイシエントを用いたグループワーク形式の演習を行い、個々の評価項目の意義や評価項目間の関連性の理解や、評価結果を統合解釈し、介入プログラムの立案ができるようにする。

【学修目標】

一般目標

内部障害を構成する疾患・障害の基本的な理学療法評価および理学療法プログラムを作成し、実行できる能力を身につける。

行動目標

1. 背景にある病態踏まえて、必要な理学療法評価を抽出することができる。
2. 得られた評価項目から問題点を整理し、理学療法プログラムを立案できる。
3. 各疾患に応じた基本的な評価・理学療法手技を実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	COPDに関する評価と治療手技	<ul style="list-style-type: none"> ・COPDの障害構造 ・COPDに対する理学療法評価 ・COPDに対するリハビリテーションアプローチ 	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
3) 4	肺炎に関する評価と治療手技	<ul style="list-style-type: none"> ・肺炎による呼吸不全の病態生理 ・肺炎に対する理学療法評価 ・肺炎に対するリハビリテーションアプローチ 	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
5) 6	急性呼吸不全に関する評価と治療手技	<ul style="list-style-type: none"> ・開胸・開腹術後の急性呼吸不全の病態 ・急性呼吸不全に対するリハビリテーションアプローチ ・体位排痰法 	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
7) 8	糖尿病に関する評価と治療手技	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の障害構造 ・糖尿病に対する理学療法評価 ・糖尿病に対する理学療法アプローチ 	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
9) 10	慢性心不全に関する評価と治療手技	<ul style="list-style-type: none"> ・心不全の病態 ・心不全に対する理学療法評価 ・心不全に対するリハビリテーションアプローチ 	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
11) 12	虚血性心疾患に関する評価と治療手技	<ul style="list-style-type: none"> ・虚血性心疾患の病態 ・虚血性心疾患に対する理学療法評価 ・虚血性心疾患に対するリハビリテーションアプローチ 	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
13) 14	弁疾患・大動脈疾患に関する評価と治療手技	<ul style="list-style-type: none"> ・弁疾患・大動脈疾患の病態 ・弁疾患・大動脈疾患に対する理学療法評価 ・弁疾患・大動脈疾患に対するリハビリテーションアプローチ 	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
15) 16	末梢循環障害に関する評価と治療手技	<ul style="list-style-type: none"> ・末梢循環障害の病態 ・末梢循環障害に対する理学療法評価 ・末梢循環障害に対するリハビリテーションアプローチ 	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
17	乳がんに関する評価と治療手技	<ul style="list-style-type: none"> ・乳がんの病態 ・乳がんに対する理学療法評価 ・乳がんに対するリハビリテーションアプローチ 	澤田篤史 多田菊代 新任教員
18	腹部外科術後の早期離床	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期の病態 ・早期離床の意義 	澤田篤史 多田菊代

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		・早期離床のためのアプローチ法	新任教員
19	がんリハビリテーション総論 (オンデマンド)	・がんの疫学と病態 ・がんリハビリテーションの目的と理学療法アプローチ ・終末期がん患者への関わりと緩和ケアチーム内での理学療法士の役割	澤田篤史
20	腎臓リハビリテーション (オンデマンド)	・慢性腎不全の病態 ・透析療法 ・腎臓リハビリテーションの目的と理学療法アプローチ	阿部隆宏
21	ウィメンズヘルスと理学療法 (オンデマンド)	・ウィメンズヘルスとは何か ・女性の疾患・症状に対するリハビリテーション	多田菊代
22) 23	症例検討	・がん終末期患者に関してペーパーペイシェントを用いた症例検討演習を行い、検討会を行う。	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
24) 25	症例検討	・主に循環器疾患に関してペーパーペイシェントを用いた症例検討演習を行い、検討会を行う。	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
26) 27	症例検討	・主にCOPDに関してペーパーペイシェントを用いた症例検討演習を行い、検討会を行う。	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
28) 29	症例検討	・主に急性呼吸不全に関してペーパーペイシェントを用いた症例検討演習を行い、検討会を行う。	澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代
30	神経・筋疾患	・神経筋疾患の病態 ・神経筋疾患の呼吸管理 ・神経筋疾患の呼吸ケアとマネジメント ・神経筋疾患の理学療法アプローチ	三浦利彦(特別講師) 澤田篤史 阿部隆宏 多田菊代

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験85% レポート・授業内課題の提出15%

レポートは返却を行う。

定期試験は返却しないが、個別での問い合わせに対しフィードバックを行う。

【教科書】

松永篤彦 編 「運動療法エビデンスレビュー -臨床・研究に役立つ評価指標・基準値・介入のエビデンスをこの一冊に凝縮-」 文光堂 2018年

【参考書】

亀田メディカルセンター 編集 「リハビリテーションリスク管理ハンドブック 第3版」 MEDICAL VIEW 2017年

西田修 監修 「早期リハビリテーションの実践 予後改善のためのアプローチ」 MEDICAL VIEW 2018年

美津島隆 監修 「リハスタッフのためのイチからわかる臨床検査値活用術」 MEDICAL VIEW 2018年

内部障害理学療法学の講義で紹介した参考図書

また、演習の中で内部障害理学療法学の関連分野に関わる参考書を適宜紹介していく。

【備考】

内部障害理学療法学の講義で配布し、使用した講義資料および講義ノートを適宜使用する。

【学修の準備】

1. この演習は、2年生までの解剖学、生理学、運動生理学および内科学などを基盤に行われた内部障害理学療法学に基づい

て行われるものであり、学修の準備としてこれらの授業ノートや参考書・関連図書を毎回の授業に合わせて十分復習をしてから講義に臨むこと（80分）。

2. 復習は授業資料だけではなく、教科書や参考書を活用して毎回の授業に関連する内容を十分理解すること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を实践できる能力を身につけている。

【実務経験】

澤田篤史（理学療法士）、阿部隆宏（理学療法士）、多田菊代（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

内部障害領域における実務経験に基づいて、実践的な知識・技術の習得を目指した講義を行う。